

守りたいのは命、残したいのはきれいな水と空気

瀬戸川 野仏めぐり



藤枝市原 金吹橋上流 瀬戸川左岸堤防

小長谷八兵衛

志太郡南部一帯に厄病除け、厄除けの霊神の碑または墓として各所に祭られている。その数は現在81基が確認されており、信仰の深さが伺える。伝説によると、元禄の頃、当地方は疫病の蔓延で多数の死者が出た。たまたま旅の聖が来て、投薬を施したところ疫病は治まり、以後、その聖は「弘法大師」の再来と尊ばれ請われてこの地に留まった。それが八兵衛さんであるが、出身は紀州日高郡の尾鷲ともいう。

馬頭観音

馬頭観音は、馬耕が発達した中部・関東地方以北の馬の守り神としての信仰を持ち、このほか養蚕の守り神、農耕一般の守り神としても信仰されている。

地蔵尊

冥界と現実の世界に立って冥界に行くものを救うとされることから、道祖神・賽の神とも集合して村境や辻に祀られている。しかし、身近な存在だけに多くの救済を託され、そのご利益や祈願の方法に応じて、水子地蔵・延命地蔵・川除地蔵・日切地蔵などさまざまな名称が付けられている。

写真・説明(野仏資料より)
藤枝市瀬古 在住 南條忠義先生

協賛各社

黒川医院 / 菅ヶ谷内科医院
青島歯科医院 / (株)松浦恒産
岡歯科医院 小柳津久男事務所
(有)桑原モータース
佐野設計工房一級建築事務所
服部歯科医院音羽町診療所
(株)エクノスワタナベ
(株)山田組 / 大鐘測量設計

瀬戸川フォーラム 構成団体

しずおか流域ネットワーク / 志太自然ネットワーク
(社)藤枝青年会議所 / 森林組合おおいがわ / 静岡県島田土木事務所
瀬戸川・朝比奈川非出資漁業協同組合 / ふるさと建設の会
NPO法人里の楽校 / 大井川流域ネットワーク
志太エコクリエイト / 水土里ネット大井川(大井川土地改良区)

瀬戸川フォーラムのHPもご覧ください。 <http://www.ryuikinet.gr.jp/setogawa/>
瀬戸川通信 編集責任者 大井川流域ネットワーク 小田 稔彦
島田市中央町31-10 TEL0547-36-0706

川のみらい・地域のみらいについて考える情報紙

瀬戸川通信 第14号

発行 瀬戸川フォーラム 平成16年 3月31日



瀬戸川水系朝比奈川左岸 岡部中学校付近

環境教育シンポジウム

in 志太榛原 が行われました。

平成16年3月20日(春分の日)に「藤枝総合庁舎西側会議室」において「環境教育シンポジウムin志太榛原 子どもを(大人も)育てるふるさと活動」が行われました。

瀬戸川フォーラムも参加する志太榛原地域の環境保全団体の集まりである「自然環境交流会議」でNPO法人里の楽校より提案があり、多くの団体の協力により開催されました。

当日は、雨模様にもかかわらず市民活動団体が18団体、行政関係は休日にもかかわらず協力をいただいた志太榛原県行政センターを始め静岡県島田土木事務所など参加していただきました。

瀬戸川フォーラム構成メンバーからは、「NPO法

人里の楽校、しずおか流域ネットワーク、志太自然ネットワーク、志太エコクリエイト、水土里ネット大井川、大井川流域ネットワーク」が参加しました。

参加者の方々に講演や対話集会を通じて、子供たち(大人も)に地域で行われる環境教育やふるさと活動の重要性や取組の推進などの認識を深めることが出来ました。



対話集会(市民、市民団体、行政学校)
「ふるさと活動を深め合うために」
(地域活動を支援し合うパートナーシップのあり方を求めて)
市民も議論や旗挙げアンケートに積極的に参加していただきました。



基調講演 「子どもが変わる 大人が変わる 地域が変わる」
富士常葉大学環境防災学部 助教授
山田辰美先生(NPO法人里の楽校 校長)

瀬戸川フォーラムの目的

1. 流域の自然の保全と文化の振興を図る。
2. 流域を中心に活動する市民の交流をすすめ、流域の望ましい姿を考える。
3. 子供たちの健全な成長にとって重要なふるさとの自然や文化に触れる環境や機会を設ける。

朝比奈川「ふるさと体験の場」づくりが行われています

～あなたとつくる環境教育の場づくり～

行政との協働 地域住民の意見の反映

平成13年11月に瀬戸川フォーラムイベントの「川づくりの集い」(朝比奈川の新たな整備計画に基づく区間の工事に先立ち、実施計画を地域の住民や岡部中学校などの参画の元に提案や意見を聞きながら合意形成を図りより豊かな自然環境を



育む朝比奈川の将来像を図る)が行われた岡部町子持坂で現在、静岡県島田土木事務所と地元住民や岡部町、岡部中学校、瀬戸川フォーラムの協働による「ふるさと体験の場」づくりが行われています。この「ふるさと体験の場」づくりは、瀬戸川や朝比奈川などの流域河川の今後20年先のあるべき姿を計画した「河川整備計画」に基づき実施されています。(平成9年の河川の法律改正により環境に配慮した整備も盛り込まれ、地域住民の意見を反映する川づくりが求められています)

働による「ふるさと体験の場」づくりが行われています。この「ふるさと体験の場」づくりは、瀬戸川や朝比奈川などの流域河川の今後20年先のあるべき姿を計画した「河川整備計画」に基づき実施されています。(平成9年の河川の法律改正により環境に配慮した整備も盛り込まれ、地域住民の意見を反映する川づくりが求められています)

●●●●●●●●●● ふるさと「かあーら」の会 発足!

子持坂地区の河川整備にあたり、地域でふるさと体験の場の計画や利用維持を考えていく中心組織の「かあーらの会」を平成15年12月4日に岡部町町民センターで開きました。平日の忙しい最中でしたが、地域の人や静岡県島田土木事務所、岡部町役場の人など、朝比奈川に関わる様々な人が



皆でうちとけあい。

合計23名集まりました。初対面のため、最初はゲームでリラックスをしました。雰囲気や和んだところで、自己紹介を兼ねて、皆に小さ

平成10年に行われた「朝比奈川 観察提案会」や「川づくりの集い」などで、岡部中学校近くの河川敷(現況畑:堤外民地)の部分に、岡部町の未来を担う子ども達に、工事などにより魚釣り川遊びができる場所がなくなってしまうことや子ども達が群れになって遊ぶ事がなくなってしまったことから、自然体験活動を行えるような場所を作れないかとの提案が有り、計画にこの場所を「自然環境とふれあえる場所」と位置づけ整備されることとなりました。

現地は川幅の狭い箇所などもあり、過去何回か水害の被害も発生していることから、治水を一番にして改修して欲しいとの願いが「川づくりの集い」でも出されおり、治水工事を優先して行い現地の自然環境を活かしながら調和のとれた河川整備とすることで事業が行われることになりました。



い頃の思い出やふるさとを感じる生き物を話し合いました。小さい頃の遊びは、川では水泳や魚とり、山では探検や虫や果実とりが多く、この地域に豊富な自然があったことを物語っています。子供達には、自分たちが昔体験した自然へのふれあいの大切



さを感じてほしいという意見が多く聞かれました。

「地域づくりは、人づくり」

次に、住民参加のワークショップ(話し合い)に向けての流れや役割を確認しました。そして、住民参加の地域活動の先進事例として焼津市東益津の落合孟郎さん(志太自然ネットワーク:瀬戸川フォーラム会員)にお話をしてもらいました。落合先生は、「地域づくりは人づくり」とおっしゃいました。地域を育てるということは、人と人とのコミュニケーションを育てることと同じであるという意味です。また、人から人に伝えるべきことは、単に昔の遊びや歴史、昔話を教えるだけ

ではありません。地域の住民が、その地域を今後どのようにしていきたいかビジョンをしっかりと持ち、「未来づくりの方向付け」を行ってから伝えることが大切だとおっしゃいました。



落合先生のお話

なるほど講座 第8回

平成16年 2月22日(日)
岡部町子持坂 朝比奈川～里山の道

ふるさとの川づくりが行われている岡部町子持坂地区の朝比奈川や里山の道にはウォーキングや散策をする人たちがたくさん訪れます。そんな人達のために地元のまちづくり協議会では、少し休んで景色を楽しんでもらおうと竹のベンチづくりをしました。



この竹は、昔はかごやびくなどの竹細工に使われたり、孟宗竹は食用としてたくさん出荷されていましたが、プラスチック容器に変わったり中国から安い加工した筍が出回ったりと竹の利用が進まなくなり、耕作者の高年齢化も相まって耕作放棄地が増え、岡部町でも課題の一



つとなつて少しくも関係を持ってもらうこととでベンチに利用しています。



瀬戸川フォーラムでは、地域の人たちのお手伝いを行おうと「なるほど講座第8回」として参加者を募りました。当日はあいにくの雨模様で参加者は少なく残念でしたが、地域の人たちとの交流をすることができ満足でした。

午後からは里山の道の完成記念のイベントも行われ、お餅つきや萬松院で「静岡バンブオーケストラ岡部宿竹の合奏団」の公演も行われるなど、盛りだくさんの行事となりました。

